



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 53

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 53. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1957, 53: 55-60

ISSUE DATE:

1957-02-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186817>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

No. 53

1957.1月(2月4日)

録 事

昨年来、紀勢線の完通近きにある折柄、白浜は近き将来、観光客の激増することを見越し、"神武景気"とやらで旅館商店などあちこちと新築増築改装に大童の模様である。実験所前でも雜貨商店は店舗を拡張し、多数の車を設け、明光バス待合所には万亭経営の喫茶室"サロンマリン"が新しくお目見をするなど、早くもその受入れ態勢を作ることは拔かりがない。

実験所でも、官立のこととて実現するかせぬかは別として、とも角も昨年来の計画であるところの水族館の本格的改築案をたて32年度管繕工事計画の予算請求資料として大学に提出した。この案によれば、建坪約176坪の2階鉄筋コンクリート建として、前後2期に分けて改装されることになる。それと同時に給排水路系も全面的に改善されねばならない。これ^{金銭}的実現は困難であろうが、早晚計らねばならない将来の水族館としての死活問題である。

年頭早々から、構内の総排水路主管の屈曲をまっすぐにして海側に延長すると同時に、その左右の海浜側に砂防用のシガラを約20m設けた。ところが工事場所にあるところの海岸への降り口の使用について、これを利用して大仲露店主と遊覧船側との意見相合わず対立の態となつたために、事態を処理するため25日白浜漁業組合長岩橋茂氏の立会いの下に、露店側大仲栄吉氏、遊覧船組合長山村清助氏、金森要造氏、榎本植物園長、実験所側内海・山内委員の6名が相合同し、懇談の結果、大体次のように落着した。

1. 南海岸への降り口は昔からある3個所に限定する。
2. 水族館正門側の降り口は閉鎖する。
3. 水族館南側の降り口を今の2倍に広げて、降り易くする。
4. 寄宿舍前の降り口にコンクリートの舗装階段を設け、遊覧船の乗船口であることを標示する標柱を立てる。
5. なおその海浜には夏期の暑熱時に限り、テント張りの乗船客待合所を仮設することを許す。
6. 海浜には現在以上露店の設置を認めない。
7. 遊覧船、特にグラスボートの説明案内には水族館側と相協力することを約す。

以上のうち第2項は即座に実行され、降り口は閉鎖されて、その上に植林、砂防工事を施し、大仲露店の東側に海浜への降りられる余地を残した。

なお水族館より番所山に通ずる海岸道は、番所山側の手により約1尺程石垣を高くし、路面を平坦にし、内柵が整齊に建て改められた。28日には番所山の上にあった成田不動堂が山下の岩窟内旧砦座跡に遷座され、付近の景観は一段と美しくなった。

旧臘発注した橋本重工業K.K.の二段タービンポンプがとどいたので、旧台座を修理の上、西村商会の手で取りつけた。次の大潮時、水路清掃の上、試運転のはこびに至る予定である。

研究室の東側に14坪、高さ9尺の立派な藤棚ができて上った。費用は予定よりもやすくついたが、この棚から美事な藤が垂れ下るであろう5月の春が待ち遠しい。

1月16日午後1時実験所創設以来17年の長さにわたって実験所のために盡された元京大助教授赤塚孝三氏(現三重県立大学水産学部講師)が惜しくも急逝された。謹んで先生の御冥福を祈る。

業 務 概 況

◎ 1 月の入場者数

区 分	水族館発売数		明老バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	6741	73696	16554	140216	23295	213912
小 人	607	6232	424	3836	1031	10068
団 体	5809	108824	—	—	5809	108824
合 計	13157	188752	16978	144052	30135	332804
無料入場者	町関係者		20名		20	1080

団 体 : 一 般 55組, 学 生 2組 計 57組

◎ 1 月の事業収入

(今年度累計)

観覧券売上金	573,963	6,060,298
予金積立金利子	—	49,082
雑 収 入	75	11,205
臭 類 押下	—	100
計	574,038	6,120,685

◎ 1 月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	704,041	7,599,333	工事諸修理人夫賃金
会 計 費	—	68,507	
備 品 費	8,610	194,210	ゴミ箱, ベンチ
消 耗 費	26,518	124,994	
事 業 費	43,301	426,532	
維持 費	28,260	141,741	道路水柵, 排水路補修等
其 他 諸 経 費	2,137	247,069	
積 立 金	98,070	1,032,762	
合 計	2,773,300	2,995,748	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	—	80565	
獎 学 金	5000	50000	
備 品 費	—	46640	
刊 行 費	—	307375	
役 務 費	—	62125	
合 計	5000	546705	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	6000	62235	
備 品 費	—	88500	
消 耗 費	4300	10755	別製アルバム 20部
役 務 費	—	25810	
合 計	10300	187300	

臨時費

拍 要	金 額	累 計	備 考
藤 棚 設置	33755	400875	
合 計	33755	400875	

支出合計

		(今年度累計)
水族館経費	277,300	299,5748
実験所経費	5,000	546,705
博物館経費	10,300	187,300
臨時費	33,755	400,875
計	326,355	4,130,628

◎ 1 月末現在高

前月からの繰越	1,845,558
今月の収入合計	574,038
今月の支出合計	326,355
現 在 高	2093241

◎ 前年度との比較

	1956	1957	増 減
入場者数	25911	30135	+ 4224
売上金	495,892	573,963	+ 78,071
支出金	274,824	326,355	+ 51,531

水族館記事

- ◎ 1日以来アカウミガメの仔が次ぎつぎと30匹も死に、余すところ3匹のみとなった。水槽は保温してあるので、低温のためとは考えられず、死因は今のところ不明。
- ◎ 2日テナガダコ 1匹、22日マダコ 1匹入槽。
- ◎ 3日ニシキエビの巨大なもの1匹(約600g)同参見より入荷し、ニシキエビの2匹の勇姿を水槽の中にひそめて^{no34}いる。
- ◎ 水槽No.31のシロベリウツボが2日、22日、27日、キグチウツボが9日、12日、15日、16日と相次いで死に絶えたので代りに巨大なウツボをいれることにした。
- ◎ 14日ハナシャコ 1匹入槽。
- ◎ ドチザメ約5貫目のものと約4貫目のものが18日、22日に相次いで入槽、元気なハマチの群といっしょにNo. 24の大水槽を賑やかにしている。

博物館記事

- ◎ 25日瀬戸沖のエビ網で採れたヘラヤガラ(体長55cm) 1匹を液浸標本とした。
- ◎ 昨年12月水族館で死んだクロガシラウミヘビ(体長135cm)、イソモンガラ(体長25cm)を液浸標本として保存する。
- ◎ 実験所でこれまで撮影した夥しい水中或は海岸での生態写真や、内外各地の著名臨海実験所の写真を整理保存するために特別のアルバムを20冊調製した。

- ◎ 渡部忠重氏の“内湾の貝類遺骸の研究”、奥野良之助氏の“すみ場・食性・行動からみた磯奥の生活様式”の各2冊を参考資料として白浜漁業会に寄贈した。

資 料

- ◎ 1月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(21)	6	9	6
気 温 (C°)	$\frac{8.3 \sim 14.2}{11.4}$	$\frac{7.9 \sim 15.6}{10.9}$ *	$\frac{8.0 \sim 16.0}{11.0}$
水 温 (C°)	$\frac{13.0 \sim 16.2}{14.7}$	$\frac{13.7 \sim 15.7}{14.6}$	$\frac{13.1 \sim 17.2}{14.5}$
比 重	$\frac{25.6 \sim 26.8}{23.2}$	$\frac{25.7 \sim 26.4}{26.1}$	$\frac{25.3 \sim 26.3}{25.9}$

但し { 気温は南水槽室
 { 水温 } で9時測定
 { 比重 } はNo.25水槽

来 訪 録

- 1月8日 北海道水産試験場技官川合豊太郎氏
 1月10日 小樽水産高等学校教諭高田喬夫氏
 両氏は共に昭和33年開設を予定される小樽市立水族館開設のための資料蒐集、施設参考のため来館された。
 1月15日 大阪府下淡輪に今春開設予定の南海電鉄の水族館に併設される京大水産学科の実験室の運営その他につき意見聴取のため京大水産学科助教授米田勇一博士が来館された。
 1月18日 今春別府市脇浜に新設される水族館計画のため別府博統務部会長前田松夫氏、別府市建築課長菊地秀夫氏、別府市評議員三比古氏が来館。

昭和32年2月4日

(No. 53)

編集兼
発行所

内 海 留 士 夫

発行所

瀬戸海実験所振興会
 和歌山県白浜町
 瀬戸海実験所内

(Tel. 白浜温泉515)